

この教材見本は、実際の1カ月分の教材よりも回数・ページ数が少ないダイジェスト版です。

※実際の教材の1カ月あたりの学習量は、1回60分×2回です。

この教材見本は1カ月分の一部を抜粋して掲載しています。

※ [総合] はテキストスタイルのみとなります。

社会分野1 じっとグラフを見る

① 問題へのアプローチ

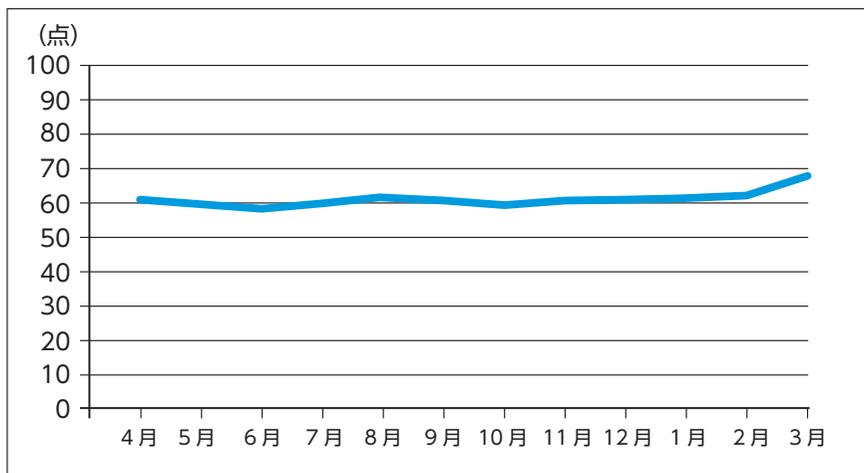
② 添削問題 添削問題1

巻末 添削指導例

じっとグラフを見る

このグラフは、現実どおり？

-  う～む……。
-  どうしたんだい、難しい顔して。
-  先月のテスト、自分としてはこの1年で最高の出来だったんですよ。67点。
-  よかったじゃないか。
-  この調子でどんどん行きますよー、だからお小遣いの増額を……という交渉をしようと思って、グラフを作ってみたんですけど、こんなになっちゃって。



-  はっはっは。これじゃあ、どんどん行きますよー、と言われても、説得力がないね。
-  でしょう？ 先生、何かいい方法、ありませんか？
-  うーん、ないことはないけど、グラフで人をだます方法になるからなあ。
-  先生、そこをなんとか！
-  しょうがない、ほかならぬ君の頼みだ。君がグラフにだまされなくなるように、という意味で、いくつか方法を教えてあげよう。
-  ありがとうございます！
-  言っておくけど、悪用しちゃいけないからね。

ステップ 1 グラフは、誰かが、何かの意図を持って作っている

グラフとは、数字が並んでいるだけの情報を、それぞれの数字の関係や動きが目で見てわかりやすくなるように、図で表したものだ。そしてしばしばグラフには、その特徴を簡潔に表した言葉がついているものだが（たとえば、「急上昇！」とか「急下降！」とか）、それを何の疑いもなく受け入れたりしていないだろうか。

グラフの元になっている数字自体から疑うことも可能だが、ここでは一応、数字自体は正しいものとして話を進めよう。

数字自体が正しいのだから、グラフも正しいに決まっている……と、思うかもしれない。しかし、グラフの作り方によっては、数字としては正しいグラフであっても、全く異なる印象を与えることができる。

そして、ここで気をつけてほしいことは、グラフには作り手があり、作り手はグラフを通じて何かを伝えようとしている、ということだ。

たとえば、「急上昇！」や「急下降！」。もし作り手がグラフを通じてこれを伝えようとするなら、「急上昇！」や「急下降！」がより明確にわかるようにグラフを作るはずだ。そしてたとえ実際には「急上昇！」や「急下降！」ではなくても、グラフの作り方によっては、受け手にそう思わせることが可能になるのである。

また、作り手の意図は、「急上昇！」や「急下降！」それ自体にとどまらないことがほとんどである。「急上昇！」しているから、〇〇しなければならない。「急下降！」しているから、〇〇が必要だ。この、「〇〇しなければならない」「〇〇が必要だ」という作り手の意図まで読み取れれば、逆に言えば、「〇〇しなければならない」「〇〇が必要だ」と言いたいがためにグラフを持ち出してきたのだ、とまで読み取れれば、今の段階では、グラフの読み取りとしては合格だ。

◀参考文献
ダレル・ハフ『統計でウソをつく法』（講談社ブルーバックス）



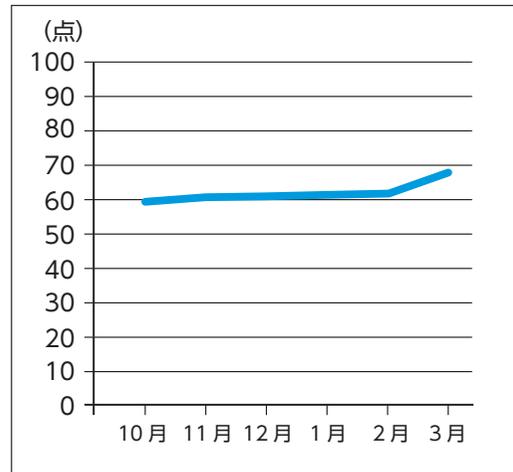
最近の新聞記事から、これはある特定の意図をもって作られたグラフではないだろうか、という例を挙げてみよう。また、そこに込められた意図を考えてみよう。

・グラフの例

・グラフに込められた意図



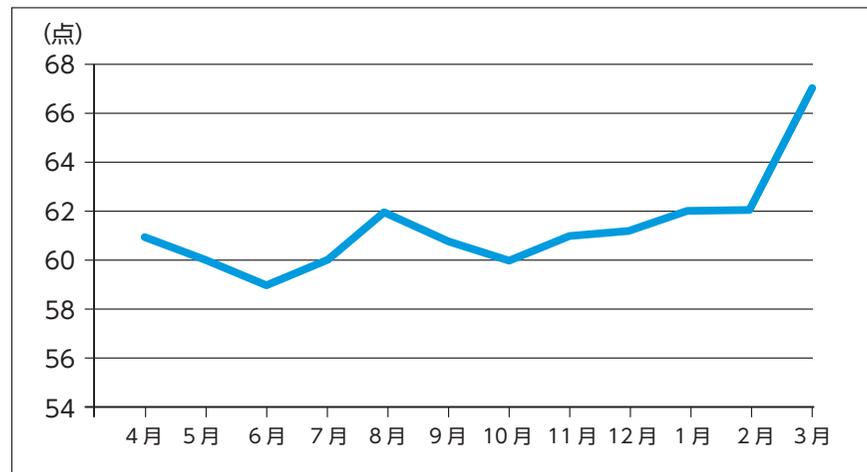
さて、と。成績が急上昇しているように見せたい、というのが君の意図だったね。方法は三つある。一つは、横軸の期間を短くして、上昇しているところを目立たせる方法だ。最初のグラフを、1年ではなく、半年の期間で見てみよう。



先生、これでも、あんまり急上昇、という感じじゃないんですけど。



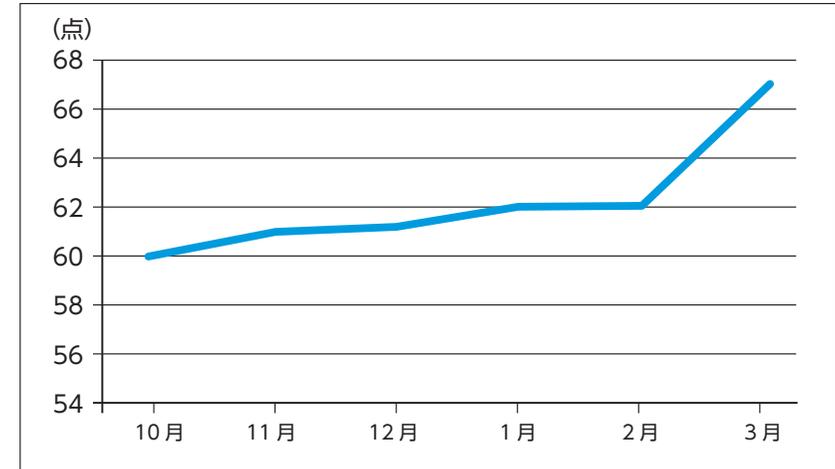
まあまあ、あせらないあせらない。もう一つの方法は、縦軸の範囲を狭くして、上昇しているところを目立たせる方法だ。最初のグラフの縦軸を、0点から100点ではなくて、54点から68点にしてみよう。



デコボコはしているけど、だいぶ上昇ムードになってきました！



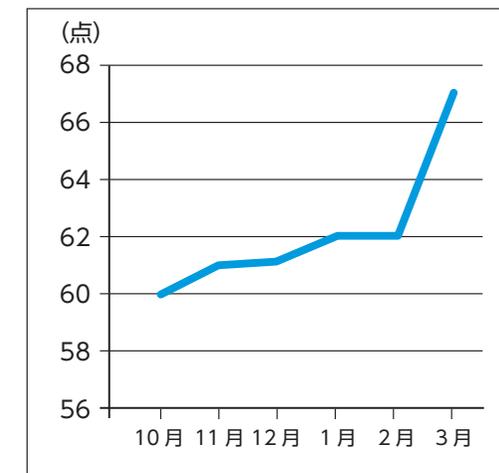
だろう？ で、この二つの方法を組み合わせると、次のようになる。



おお！ 先生！ 上昇ムードたっぷりじゃないですか！



そして最後の方法として、グラフの横幅自体をぐっと狭めると、次のようになる。



みんなの意見

このグラフは世間を誤解させたのではないか、という例を、なぜそう言えるのかも含めて、「みんなの意見」に投稿してみましょう。

1 次の資料1, 2を読んで、後の問に答えなさい。

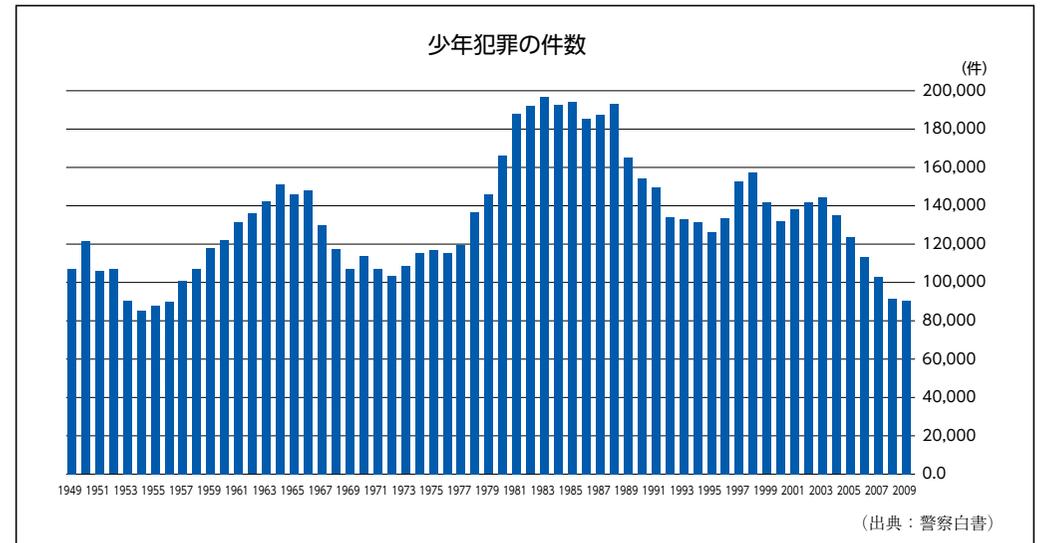
(配点 50)

資料1

- う〜む……。
- どうしたんですか、先生。難しい顔して。
- いや、こんな記事があっただろ。

著作権の処理上、この見本には文章を載せていません。

- 道徳、ですか。小学校のとき、道徳の授業、ありましたよ。「心のノート」っていう教材を使って。あ、途中で「私たちの道徳」っていうのに変わったかな。
- うん。でも、これまでは正式な「教科」ではなかったんだよ。通知表に「道徳」なんて項目、なかったらどう?
- そう言われると、授業はあったけどテストはありませんでしたね。
- その「心のノート」なんだけど、どういう経緯で導入されたか知っているかい?
- いえ。
- 1990年代後半、メディアに大々的に取り上げられるような少年犯罪が相次いで起こってね。昔に比べて社会は豊かになったけど心が貧しくなっている、だから子どもが犯罪に走るのだ、子どもの「心の教育」が必要だ、となって、2002年春に配布が始まったんだ。
- へーえ。じゃあ、昔の子どもは (A) わけですか?
- うーん、必ずしも、そうとは言えないんだ。戦後からつい最近までの、少年犯罪の数をみてみよう。



- デコボコはありますが、近年になって、 (B) ですよ。
- そうなんだ。それを指摘すると、「心の教育」推進派の中には、「いやいや、少年の凶悪犯罪が増えているのだ、だから心の教育が必要なのだ」と主張する人もいます。
- 凶悪犯罪って?
- 殺人とか強盗とかだね。そして、かつてよく取り上げられたのが、次のグラフだ。

著作権の処理上、この見本にはグラフを載せていません。

うわあ。まさに急増じゃないですか！

これだけを見ればね。だけどこれは、あくまで統計の一部分だけを切り取ったものだ。もっと長いスパンの統計を見てみよう。



(出典：警察白書)

あれれ？ 長期的に見ると、むしろ凶悪犯罪はピーク時と比べて激減しているじゃないですか！

うん。そしてこのグラフは2000年までだけど、それ以降、現在まで少年による凶悪犯罪は減り続けている。

あれれ？ ホントに昔の子どもは、心が豊かだったんですか？

うん、だから、考えるべきは、(C), ということなんだ。

(1) 空欄Aに適切な表現を20字程度で書きなさい。(7点)

(2) 空欄Bに最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。(7点)

- ア 減ってきたのは、おそらく「心のノート」のおかげ
- イ 減少傾向にありますから、油断はできないということ
- ウ 底をうった少年犯罪がまた急激に増えていきそうな傾向
- エ 1995年のレベルになっていますから、次のピークは10年後
- オ そんなに急激に少年犯罪が増えたという感じではない

2 資料2で、先生は「考えるべきは、はたして道徳教育によっていじめは防げるのか、ということなんだ」と言っていました。政府は道徳を正式な「教科」にすることを「いじめ対策の一つとして」位置づけています。

では、あなたなら、いじめ問題に対してどのような対策を打ち出すのがよいと考えますか。道徳を正式な「教科」にすることがいじめ問題にもたらす結果やその理由にも触れながら、300字以内であなたの考えを述べなさい。(配点 50)

なお、この問題に取り組むにあたっては、本やインターネットなどを使って自由に調べてかまいませんが、解答の内容に調べたデータや情報を含める場合には、必ず「どこから調べた情報なのか」を、(例)のように示してください。

(例)

- ・気象庁の発表では、今年の夏は「冷夏」になるとされている。
- ・日本の人口は、2015年6月の時点で約1億2700万人だ(総務省調べ)。

社会分野 1 V

H7Z1B1-Z1D2

総得点 28 / 50

2 H7Z1B1-Z1C2

5 10 15 20

わたしは、いじめ問題の対策には、生徒一人一人ひとりに「つまらない」と感じさせる教育が適していると思います。

いじめをする人は、いじめをしている人がいなくなっても、また新しいいじめの対象を探すだけです。そしてその対象には、いじめを助けた人が、「いい子ぶっているから」と言いがかりをつけて選ばれることが多くなると思います。だから、道徳の教科化でいじめを助ける人を増やしても、いじめはなくなりません。

そのため、助けられるのを待つのではなく、いじめられている本人から、いじめをする人を楽しいと感じさせないようにすることが大切だと思います。

① ② ③

①生徒一人ひとりに『いじめを』『つまらない』と感じさせる教育ということですね。この「教育」が正式な教科化ではないということを明確にしましょう。

②道徳の正式な「教科」化がいじめ問題にもたらす結果をきちんと示しています。

③このようにするためにはどうしたらよいのかを、具体的に考えていきましょう。

▼解答が終わってから記入しましょう。

いろいろな対策があるだろうな、と考えながら解いたので、おもしろかったです。

あなたの感想欄や答案を、解答解説編・Z会MyPage等で紹介してもよろしいでしょうか?どちらかを○で囲んでください。(はい)・(いいえ)

学年 ① 2・3・卒など

志望校 未定 大学

解答時間 15分

辞書・教科書・参考書などを使って解きましたか
(はい) (いいえ)

教育の内容の違いがもたらす影響について、とても具体的に考えられている点はすばらしかったですね。読み手の視点を意識し、常に<人に伝える>ことを念頭におくことで、説得力のある文章にしていきましょう。

添削者名

増進

【今回の評価基準】

今回の課題では、まず、道徳を正式な「教科」にすることがいじめ問題にもたらす結果とその理由を、客観的な事実に基づいて示す必要があります。その際、結果と理由の結びつきが論理的に見て妥当かどうかが問われます。そのうえで、あなた自身が打ち出すいじめ問題対策が具体的に示されているか、そのような対策を採る根拠が示されているか、その根拠は事実に基づいているか、事実～根拠～対策のつながりが論理的に見て妥当かが問われました。

【よかった点】

道徳の正式な「教科」化がいじめ問題にもたらす結果をきちんと示しています。また、「道徳を正式な「教科」にすること」がいじめ問題にもたらす結果について、なぜそうなるかが明確に示されています。「……は……である。なぜなら……だからだ。」という形は、意見を述べる際の基本形なので、覚えておきましょう。いじめ問題に対してどのような対策を打ち出すのか、きちんと示されています。

【次回に生かしたい点】

いじめに関する教育には①<いじめられている側が自分を守るための教育>と②<周りの人がいじめられている側を助けるための教育>の2つがありますが、道徳を正式な教科にすることは②を取り上げることという前提で話が進んでいるようです。この2つがどちらの教育の内容であること、また②が道徳を正式な教科にした場合の例と考える根拠がないため、読み手は少々混乱してしまいます。まず最初にこの2つについて説明する必要があります。その上で、そのように考える根拠を示しましょう。根拠を述べたあと、「たとえば……」と客観的事実を裏付けとして挙げるのも、主張・意見を述べる際の基本形なので、覚えておきましょう。

1
5 / 5 課題発見・分析力

2
13 / 20 論理的・批判的
考察力

3
0 / 10 情報活用力

4
10 / 15 問題解決力